

平成23年9月20日

京都市長 門川 大作 様

京都市医療施設審議会
会 長 佐 野 豊

京都市病院事業改革プランに係る平成22年度の取組状況の点検・
評価結果について

別記のとおり、「京都市病院事業改革プランの点検・評価結果について（平成
22年度の取組状況）」をとりまとめましたので、通知します。

別 記

京都市病院事業改革プランの取組状況の点検・評価結果について
(平成22年度の取組状況)

平成23年9月

京都市医療施設審議会

京都市病院事業改革プランの点検・評価結果

はじめに

京都市は、当審議会が提出した「京都市立京北病院の今後のあり方について」及び「京都市病院事業に係る今後の経営形態のあり方について」の2つの答申を踏まえ、平成21年3月に、より良い医療サービスを長期的・安定的に提供し続けるためのマスタープランとして、平成21年度から平成23年度までの3年間を計画期間とする京都市病院事業改革プラン（以下「プラン」という。）を策定した。

プランにおいては、実効性を担保するため、毎年度の決算と併せて、取組状況の点検・評価を行い、その結果を公表することとされ、従前の経営形態（地方公営企業法の一部（財務規定等）適用）が継続する平成22年度分までは、当審議会がその点検・評価を行うこととされている（平成23年度以降は、地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が点検・評価を担うこととなる。）。

これを受け、当審議会は、以下のとおり、昨年度に引き続いて第2回目となる平成22年度のプランの取組状況について点検・評価を行い、その結果を取りまとめた。

なお、プランにおける具体的事項には、病院運営の根幹に係る重要課題から、現場レベルの具体的な事業まで軽重様々な項目が幅広く掲げられている。今回の点検・評価を行うに当たっては、昨年度と同様、医療の質やサービスの向上、健全な経営の確保といった大局的な視点から、いたずらに細事にわたることは避け、重要度に応じて本質的な点検・評価を行うように努めた。

第1 病院事業改革の三つの柱の進捗状況についての評価

1 「地方独立行政法人への移行による、より自律的・弾力的な病院経営の実現」について

京都市は、平成22年4月に評価委員会を設置した。

引き続き平成22年9月には、理事長予定者の内定について公表した。また、地方独立行政法人京都市立病院機構中期目標（以下「中期目標」という。）の策定や、地方独立行政法人京都市立病院機構定款の一部改正（法人が京都市立京北病院（以下「京北病院」という。）において法人設立時から、従来の療養病床を転換した介護老人保健施設の運営を行うことができるようにするため）、その他病院事業を担う地方独立行政法人を設立するために必要な関連議案が京都市会で可決された。

平成23年3月には、「地方独立行政法人京都市立病院機構に職員を引き継ぐ京都市の内部組織を定める条例」が京都市会で可決されるとともに、同機構の設立について総務大臣の認可を得た。

評価委員会は、平成22年度に全6回にわたり会議を開催し、中期目標及び地方独立行政法人京都市立病院機構中期計画（以下「中期計画」という。）をはじめとする地方独立行政法人法により市長が策定や認可を行う際に意見を聴取すべきとされている事項や評価委員会が市長に対し意見を述べることができるとされている事項について審議した。

なお、京都市は、上記取組を経て、平成23年4月1日に地方独立行政法人京都市立病院機構（以下「法人」という。）を設立し、京都市立病院（以下「市立病院」という。）、京北病院及び診療所の運営を同機構に移行するとともに、同機構において京都市京北介護老人保健施設の運営を開始した。

このように、平成22年度においては、病院事業の地方独立行政法人への移行に必要な手続が着実に進められた。

2 「市立病院の新館整備等による、京都市の中核病院としての機能の拡充」について

市立病院における平成25年度からの新館での診療開始（本館の改修を含む整備の完了は、平成26年度内）に向けた整備運営事業の着実な推進という目標については、市立病院において、引き続き準備工事を行うとともに、平成22年10月には新館等の基本設計を完了、平成23年1月には職員宿舎・院内保育所の基本設計を完了した。感染症外来の設置や感染症外来から感染症病床への直通エレベーターの設置、救命救急室の面積の4倍の拡張、ヘリポートの設置、新館の免震構造化、非常用発電機の増設、外来化学療法室の拡充、心臓・脳・血管病センター（仮称）の設置等を含む新館新築及び本館改修等の実施設計に着手しており、取組が着実に進捗しているものと認められる。

プランに掲げた平成22年度末までの累積赤字解消という目標については、1年前倒しで、平成21年度末において実現されており、平成22年度においても、過去最高となる単年度黒字を確保し、累積黒字額を積み増すことができた。

このように、新館整備等による京都市の中核病院としての機能の拡充については、取組が着実に進んでいる。

3 「市立病院との連携強化等による、京北病院の診療体制の確保」について

京北病院においては、常勤医師数が平成21年度4名から平成22年度2名となる厳しい体制の下、診療体制を確保するため、市立病院の医師や事務職員、薬剤師に兼職を発令し応援体制を構築するとともに、医師、診療放射線技師及び臨床検査技師を派遣するなど、必要な支援、協力を行っている。また、薬品の共同調達による経費の節減や資金面、経営面での支援も引き続き行われており、両病院の連携強化は進んでいると認められる。

しかし、京北病院の平成22年度決算は、単年度赤字が、平成21年度の1億7,400万円と比べて改善はしたものの、9,600万円に上っており、プラ

ンに掲げた「平成23年度決算から単年度収支黒字基調に転換」という目標の達成に向けては依然として厳しい状況にある。

第2 市立病院における改革の進捗状況についての評価

1 評価できる事項

市立病院は、民間病院では十分な対応が困難な感染症医療や災害時医療などの政策医療の提供や地域の中核的な医療機関として高度急性期医療を提供していくことが期待されている。これらの観点からは、次の3点について高く評価できる。

(1) 整備運営事業の推進による医療機能の拡充

本項目については、上記第1の2において述べたとおりの着実な進捗が認められ、政策医療、高度医療を担う京都市の中核病院として評価できる。

(2) 地域医療連携の推進

市立病院では、逆紹介率が平成21年度の68%から平成22年度72.5%へと向上するとともに、地域の医療機関との連携においても登録医が平成21年度66人から平成22年度221人へと大きく増加している。平成23年1月からは、地域の医療機関への訪問活動も実施されているなど、病病連携・病診連携による地域医療連携の着実な推進が認められる。

なお、紹介率については、44.0%と年度目標値(43.3%)を達成しているが、地域医療支援病院としての役割を果たしていくうえでは、より一層紹介率を高めることが望まれる。

(3) 地域がん診療連携拠点病院としての機能

地域がん診療連携拠点病院として、診療及び治療の面では、化学療法について入院、外来とも平成21年度より実績を増加させるとともに、平成23年2月からはIMRT及びVMATによる高精度放射線治療を開始した。

人材育成の面では、地域医療フォーラム、緩和ケア研修会、緩和ケアエキスパート研修会を開催し、院外からも多くの医療関係者の参加を得た。また、がん支援相談員基礎研修の受講者、がん放射線療法認定看護師資格の取得者、がん指導薬剤師資格取得者を育成した。

患者支援等の面からは、がん相談支援件数が平成21年度と比べて増加している。また、平成22年10月からがん患者・家族のサロンである「みぶなの会」の開催回数を従来の月1回から月2回に増やすとともに、同年11月からは新たに乳がん患者の会「微助人(びすけっと)」を月1回開催している。

このように、地域がん診療連携拠点病院として、着実な取組が認められる。

2 上記1のほか特筆できる事項

- (1) 平成22年11月に医療安全推進の取組に関し、医療安全全国フォーラムにおいて、全国で唯一、医療安全全国共同行動優秀活動賞を受賞した。

なお、医療安全の取組については、市立病院においては、インシデント、アクシデントの件数の増加がみられる。これは、報告を徹底する取組が功を奏し、これまで報告のなかったものが報告として上がってくるようになったものと考えられるが、アクシデントそのものは減少することが望まれる。また、インシデントについては、しっかり要因分析を行い、医療事故防止の取組につなげられたい。

- (2) 平成23年3月11日の東日本大震災発生直後には、岩手県花巻市へDMAT（大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に駆け付け、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム）が派遣されている。

3 収支

収入面では、10年ぶりの診療報酬プラス改定の効果及び入院患者数の増加による入院収益の増収、地域医療連携の取組の推進による外来収益の増収により、収益的収入が平成21年度に比べ増加した。

支出面では、診療材料の使用数量や単価が下がったことによる材料費の減少や企業債支払い利息の減少により、支出額を抑制できた。

その結果、市立病院整備事業に伴う渡り廊下や中庭等の除却による特別損失を減じて、平成19年度決算を抜いて過去最高となる2億6,400万円の単年度黒字を確保した。

また、プランに掲げた「平成22年度末において累積赤字を解消する」という目標は1年前倒しで、平成21年度に達成しているところであるが、平成22年度においても、過去最高となる単年度黒字を確保し、累積黒字額を積み増すことができた。

ただし、病院経営における重要な指標のうち、入院診療報酬単価や病床利用率、職員給与費対医業収益比率については、後記4で述べるとおり、いずれもプランに掲げる目標を達成できていない。これらの達成を目指すことが、経営状況の一層の改善につながるものと考えられるため、医師、看護師だけでなく事務部門を含めた職員の意識改革を進めること、病院経営や医事等に精通した専門性の高い事務職員の育成を図ることなどにより、引き続き、その達成に向け、全力を挙げられたい。

なお、入院・外来比率についても、プランに掲げる目標は達成できてはいないが、近年、診療報酬において入院・外来比率を基準に診療報酬の加算が行われる

制度が廃止されるなど、現在では、病院経営の状況に係る指標としての意義は薄いものとなっている（このため、法人の中期計画においては、指標として採用されていない）。

4 プランに掲げた具体的取組事項の評価

(1) 概要

プランに掲げた市立病院についての具体的取組事項は、42項目である。

そのうち実施又は達成したもの（○）は33項目、一部実施又は一部達成したものの（△）は4項目ある（別紙2-1参照）。

(2) 平成21年度評価との比較

平成21年度の評価結果と比較すると、実施又は達成（○）の項目及び一部実施又は一部達成（△）の項目は同数であった。

平成21年度から評価が上昇した項目は、別紙2-1 5ページの「エ 患者サービスの向上」のうちの患者満足度の向上についての項目及び別紙2-1 21ページの「(5) 一般会計における経費負担の考え方」である。

「患者サービスの向上」の項目については、平成21年度は、患者満足度アンケート調査において、入院については一定の評価を得たものの、外来患者の評価に改善の余地が見られたことから、一部実施又は一部達成（△）の評価としたものであるが、平成22年度と同調査においては、外来の待ち時間が「長い」と答えた患者の割合が、平成21年度の39%から、平成22年度の25%へと大きく減少したことや、職員の対応に「満足」「やや満足」と答えた患者の割合が78%から85%に上昇したことなど、外来についての評価も向上したことを踏まえて実施又は達成（○）と評価したものである。ただし、待ち時間については、再診患者の予約受診の徹底などにより、一層短縮することが望まれる。

「一般会計における経費負担の考え方」の項目については、政策医療等、効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補てんするため、所要の措置を講じるとともに、具体的な積算に当たっては、総務省繰出基準外の繰出金は廃止するというものである。平成21年度は、同基準外の繰出金は廃止したが、新型インフルエンザの発生により、風評によると考えられる一般患者数の減少に伴い想定外の収益の減少が生じたため、その減収補てんを行ったことを考慮し、一部実施又は一部達成（△）の評価とした。しかし、平成22年度は、プランに定めるとおり、同基準による繰出しのみを確実にを行ったため、実施又は達成（○）と評価した。

平成21年度から評価が低下した項目は、別紙2-1の17ページの「(ア) 専攻医の増員により収益の確保を図ります。」及び別紙2-1の19ページの

「(キ) 未収金対策を強化します。」である。

「専攻医の増員による収益の確保」については、平成21年度については専攻医の数が平成20年度の40名から45名に増加したことから実施又は達成(○)の評価であったが、平成22年度は38名に減少したこと、しかしながら、常勤医師数を維持することにより、病院全体としての診療体制には支障がなかったことを踏まえて、一部実施又は一部達成(△)の評価とした。

「未収金対策の強化」については、入院において、平成21年度に比べて収納率が低下した。新規発生未収金額は、平成15年度以降、平成21年度に引き続き2番目に低い水準ではあったものの、平成21年度と比べて増加し、また、未収金残高も増加したため、一部実施又は一部達成(△)と評価した。

その他の項目については、すべて昨年度と同様の評価となっている。

(3) 全体評価

42項目中33項目(全体の約79%)が実施又は達成(○)となっている。一部実施又は一部達成(△)を含めると42項目中37項目(全体の約88%)となっている。こうしたことから、昨年度に引き続き、概ね計画どおり進捗していると認められるが、未実施又は未達成(×)のものが、昨年度と同様、次の5項目となっている。

- ・ 「より多くの入院患者の受入れと診療報酬のアップ」(別紙2-1 13ページのア)
- ・ 「入院・外来比率」(別紙2-1 14ページのイ)
- ・ 「入院単価の確保」(別紙2-1 18ページの(イ))
- ・ 「病床利用率88%」(別紙2-1 18ページの(ウ))
- ・ 「職員給与費対医業収益比率の引下げ」(別紙2-1 20ページのイの2つ目の項目)

いずれの項目も、平成21年度より改善したものの、目標の達成には至っておらず、引き続き改善が求められる。

なお、「職員給与費対医業収益比率の引下げ」の項目については、全国共通の地方公務員共済制度において法定福利費(いわゆる共済追加費用)が増加したことや地方独立行政法人への移行に伴う一時的な退職手当の増加の影響が大きい。

5 関連する数値目標の達成状況

(1) 概要

市立病院については、プランにおいて、上記の具体的取組事項42項目のうち6項目については、関連する「数値目標」(計21項目)を掲げている(別紙3-1参照)。この数値目標は、「医療機能に係る数値目標」6項目と「財務

に係る数値目標」15項目とから成っている。

(2) 平成21年度評価との比較

平成23年度目標を前倒して達成した項目(◎)と該当年度の目標を達成した項目(○)との合計は、平成21年度7項目から平成22年度8項目と、1項目増加した。

該当年度の目標を概ね達成の項目(△)と未達成(前年度実績より改善)した項目(▲)との合計は、平成21年度8項目から平成22年度12項目と、4項目増加した。

未達成(×)の項目は、平成21年度6項目から平成22年度1項目と、5項目減少した。

このように、数値目標について、全体では一定の改善がみられた。

(3) 医療機能に係る数値目標

「医療機能に係る数値目標」については、23年度の目標を前倒して達成(◎)と該当年度の目標を達成(○)との合計は、平成21年度は6項目のうち4項目であったが、平成22年度は5項目となった。

平成21年度において未達成(前年度実績より改善)(▲)であった「救急車受入れ件数」、「がん治療延べ件数」について、平成22年度は23年度目標を前倒して達成(◎)した。特に、「救急車受入れ件数」は、過去最高の救急搬送を受け入れるとともに、救急入院患者数も増加(平成11年度以降最高)するなど、二次救急医療体制を担う救急告示医療機関として重症の救急患者の積極的な受入れを行っている。

なお、「救急患者数」自体は未達成(×)となったが、入院や手術が必要な患者に対応する二次救急医療体制を担うべき市立病院の役割にかんがみれば、外来を中心とする一次救急(初期救急)の患者を含む同指標の意義は薄い(このため、法人の中期計画においては、指標として採用されていない。)

(4) 財務に係る数値目標

ア 「財務に係る数値目標」15項目については、23年度の目標を前倒して達成(◎)と該当年度の目標を達成(○)との合計は、平成21年度と同様の3項目(「1 平均在院日数」(◎)、「9 外来診療報酬単価」(○)及び「11 収益的支出」(◎))にとどまった。

その他の12項目については、平成21年度は前年度実績より改善しなかったもの(×)がうち6項目あったが、平成22年度は12項目のすべてにおいて、前年度実績より改善し、該当年度の目標を概ね達成(△)又は未達成(前年度実績より改善)(▲)となった。

イ 未達成(△又は▲)の12項目に係る評価は、次のとおりである。

⑦ 入院診療に係る数値目標のうち、「4 入院患者数(実患者数)」(▲)は、平成21年度に引き続き、過去最高となったものの、目標には届かなかったため、「2 一般病床利用率」(▲)、「3 入院患者数(延べ患者数)」(▲)とも目標に達しなかった。

「5 入院診療報酬単価」(▲)は、診療報酬のプラス改定の影響もあり、平成21年度実績に比べ大幅に改善したが、目標値に届かなかった。

⑧ 外来診療に係る実績については、新型インフルエンザによる影響がなくなるるとともに、紹介率及び逆紹介率の増加等の地域医療連携の取組が進んだことにより、「6 入院・外来比率」(▲)、「7 外来患者数(延べ人数)」(▲)、及び「8 1日当たり患者数(外来)」(▲)は、プランの数値目標には達しなかったが改善した。

⑨ 運営収支に係る数値目標のうち、「10 収益的収入」(▲)、「12 単年度収支」(▲)、「13 累積収支」(▲)、「14 経常収支比率」(△)及び「15 職員給与費対医業収益比率」(▲)については、プランの数値目標を達成できなかったが、「14 経常収支比率」については、ほぼ目標を達成する数値であった。その他についても、いずれも平成21年度から改善した。

第3 京北病院における改革の進捗状況についての評価

1 評価できる事項

(1) 地域で唯一の救急告示病院としての役割

京北病院は、医療機関へのアクセスが悪い京北地域における唯一の中核的な医療機関であり、地域において医療・保健・福祉サービスを提供する様々な社会資源との連携を図りつつ、地域住民のいのちと健康を支えていくことが期待されている。

救急患者については、常勤医師が平成21年度4名から平成22年度2名体制となった厳しい状況下においても、ほぼ例年に並ぶ2,163人を受け入れており、地域で唯一の救急告示病院としての役割を一定果たしたものと評価できる。

(2) 地域のニーズや期待に応えるための取組

ア 高齢者の受診割合が高く、通院手段が限られているという地域の実情を考慮し、引き続き患者送迎を着実に実施するとともに、通院が困難な方に対する訪問看護、訪問診療の充実に努めた。

イ 平成22年3月から開始した電話による外来予約受付について、初診の方も受付できるようにするなど、利用者にとって利用し易い環境の整備に努め

た。

ウ 平成22年6月の京都市医療施設審議会からの答申を受けて、平成23年4月から療養病床を介護療養型老人保健施設に転換するため、浴室の改修工事や居室の内装工事を行うなどの準備に取り組んだ。

(3) 療養病床から介護老人保健施設への転換

京北病院の入院機能については、平成20年9月に当審議会から「今後2年間における稼働病床利用率の推移や診療報酬の動向等を見極める中で、地域ニーズに見合う機能の確保に努めていくべき」との答申を行い、平成22年6月28日には、市長からの諮問を受けて「すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換することが最適である」と答申した。

これに対し、京都市では、第1の1で述べたとおり、平成22年9月に地方独立行政法人京都市立病院機構定款を一部改正し、平成23年4月の地方独立行政法人設立時から療養病床を介護老人保健施設に転換することとした。

2 収支

収入面では、居宅サービス事業収益は増加したものの、入院患者数及び外来患者数ともに減少したことが影響し、診療収益の減少が続いている。

費用面では、常勤医師数の減少等により給与費が大幅に減少したほか、医事業務や建物管理、清掃業務の委託料の縮減により経費を節減できた。また、平成6年度に改築した病棟設備の減価償却が終了したため、支出が減少した。

この結果、単年度の赤字額は9,600万円となり、平成21年度の1億7,400万円から7,800万円赤字額を縮小することができた。しかし、プランに掲げた「平成23年度決算から単年度収支黒字基調に転換」という目標との差は依然として大きい。

3 プランに掲げた具体的取組事項の評価

(1) 概要

プランに掲げた京北病院についての具体的取組事項は、21項目である。

そのうち11項目について実施又は達成（○）と評価しており、5項目で一部実施又は一部達成（△）と評価している（別紙2-2参照）。

(2) 平成21年度評価との比較

平成21年度と比較すると、実施又は達成の項目（○）が一つ減り、一部実施又は一部達成の項目（△）は同数、未実施又は未達成の項目（×）は一つ増えている。

平成21年度から評価が低下した項目は、別紙2-2 7ページの「エ 収

入増加・確保対策」と、**別紙2-2** 9ページの「ア 定員管理の取組」の2点である。

「収入増加，確保対策」については，平成21年度は，市立病院との連携強化について一定評価し，一部実施又は一部達成（△）と評価したが，平成22年度については，常勤医師が平成21年度の4名から2名へ減少し，これが収入増加・確保が図れなかったことに大きく影響したため，未達成（×）と評価したものである。

「定員管理の取組」については，平成21年度は，職員の実配置が減少したことから達成（○）と評価した。平成22年度についても，2名の減少となったが，これが維持，増加させるべき常勤医師であったことから，一部実施又は一部達成（△）と評価したものである。

その他の項目の評価については，すべて前年度と同様となっている。

(3) 全体評価

21項目中11項目（全体の約53%）が実施又は達成（○）となっており，一部実施又は一部達成（△）を含めると21項目中16項目（全体の約76%）となる。しかし，未実施又は未達成（×）の5項目は，次のとおり経営面の取組となっており，具体的取組事項の達成が患者の増加や経営の改善に結びついていない。この傾向は，平成21年度に引き続き認められる。

- ・ 「経営計画に示す病院経営の数値目標の達成」 **別紙2-2** 3ページの(4)
- ・ 「より多くの入院患者の受入れ」 **別紙2-2** 4ページのア)
- ・ 「より多くの外来患者の受入れ」 **別紙2-2** 4ページのイ)
- ・ 「単年度収支黒字基調転換」 **別紙2-2** 5ページのウ)
- ・ 「手術件数の増加」 **別紙2-2** 7ページのエ)

4 関連する数値目標の達成状況

(1) 概要

京北病院については，プランにおいて，上記具体的取組事項21項目のうち4項目について，関連する「数値目標」（計19項目）を掲げている（**別紙3-2**参照）。この数値目標は，「医療機能に係る数値目標」3項目と「財務に係る数値目標」16項目とから成っている。

(2) 平成21年度評価との比較

平成21年度と比較すると，平成23年度目標を前倒して達成した項目（◎）と該当年度の目標を達成した項目（○）との合計は，平成21年度，平成22年度とも2項目と同数であった。

該当年度の目標を概ね達成（△）と未達成（前年度実績より改善）（▲）し

た項目との合計は、平成21年度2項目から平成22年度7項目と5項目増加した。

未達成(×)の項目は、平成21年度15項目から平成22年度10項目へ減少した。

このように、数値目標については、未達成ではあるが前年度実績より改善(▲)したものが増加した。

(3) 医療機能に係る数値目標

「医療機能に係る数値目標」については、「17 延べ患者数(入院(一般+療養))」(×)、「18 延べ外来患者数」(×)が未達成であった。「19 救急患者数」(▲)は、常勤医師数が4名から2名に減少するという厳しい体制の下においても、未達成であるが前年度実績より改善しており、救急告示病院として一定の機能を果たしたと評価できる。

(4) 財務に係る数値目標

ア 「財務に係る数値目標」16項目については、23年度の目標を前倒して達成(◎)と該当年度の目標を達成(○)との合計は、平成21年度と同様「10 診療報酬単価(外来)」(◎)及び「12 収益的支出」(◎)の2項目にとどまった。

その他の14項目については、該当年度の目標を概ね達成(△)と未達成(前年度実績より改善)(▲)との合計は、平成21年度は2項目であったが、平成22年度は6項目に増加した。未達成(×)は、平成21年度は12項目であったが、平成22年度は8項目に減少した。

イ 未達成(△、▲又は×)の14項目に係る評価は、次のとおりである。

(7) 一般病床に係る数値目標については、「2 病床利用率(一般病床)」(×)、及び「3 延べ患者数(一般病床)」(×)は、未達成であった。「1 平均在院日数(一般病床)」(▲)、「4 診療報酬単価(一般病床)」(▲)については、未達成ではあるが、ある程度目標に近づいた。

(8) 療養病床に係る数値目標について、常勤医師不足により入院患者の受入れが減少したことから、「5 病床利用率(療養病床)」(×)、「6 延べ患者数(療養病床)」(×)は未達成であった。「7 診療報酬単価(療養病床)」(▲)は21年度より改善したが、目標には届かなかった。

(9) 外来に係る数値目標については、常勤医師不足により、「8 延べ患者数(外来)」(×)、「9 1日当たり患者数(外来)」(×)が目標を下回った

(10) 運営収支に係る数値目標については、「14 累積収支」(×)、「16 職員給与費対医業収益比率」(×)が未達成であった。「11 収益的収入」(▲)については改善したものの未達成であった。「13 単年度収支」(▲)及び「15 経常収支比率」(▲)については、平成21年度から大幅に改

善したものの目標の達成には至らなかった。

5 平成22年度に当審議会が行った京北病院の運営全般についての提言に対する取組

(1) 当審議会は、平成22年6月に京北病院の療養病床を介護療養型老人保健施設へ転換することが最適である旨の答申を行うとともに、その中で、併せて、京北病院の地域における役割や厳しい経営環境、全国的に医師確保が困難となっている状況を踏まえ、運営全般について、次の5点にわたる提言を行った。

- ① 医師の確保
- ② 一般病床及び診療所のあり方についての今後の検討の必要性
- ③ 地域ニーズへの対応と職員の取組
- ④ 地元住民の理解
- ⑤ 職員の働きがいの向上

(2) これら提言に対する平成22年度の京北病院の取組は、次のとおりである。

①の医師の確保については、第1の3で述べたとおり、市立病院との連携強化等により診療体制の確保は図られているものの、常勤医師が4名から2名に減少しており、引き続きその確保に向けた取組の強化が必要である（なお、平成23年4月に常勤医師を1名採用し、3名体制となっている。）。

②の一般病床及び診療所のあり方についての今後の検討の必要性については、療養病床の介護老人保健施設への転換に向け、平成23年1月から、一般病床が従来の41床から38床になり、療養病床が26床から29床になった（これにより、介護老人保健施設については、小規模な施設としての制度上の上限である29床で開始することができた。）。

今後は、高齢化が進む京北地域において、京北病院が果たすべき役割や病床利用率などの状況を踏まえ、一般病床の病床数や提供する医療機能のあり方について、さらに検討していく必要がある。

また、診療所については、平成22年度は特段の検討は行われていないが、患者数の減少が継続しており、早急にあり方の検討を行う必要がある。

③の地域ニーズへの対応と職員の取組については、法人の設立に併せて療養病床を介護老人保健施設へ転換することを決定したことや、「いきいき京北地域ケア協議会」に正式に参画し、関係機関と連携して健康増進セミナーや講演会、要援護高齢者の情報共有に係る会議などを実施したこと、患者送迎や訪問診療、訪問看護等の地域の医療ニーズに対応した取組が行われた。

④の地元住民の理解については、「京北タイムス」等の広報誌への掲載、健康増進セミナーのいきいき京北地域ケア協議会との共催等の取組が行われた。

⑤の職員の働きがいの向上については、医師の地域手当の引き上げが行われ

た。また、平成23年度からの介護老人保健施設の開所に向けて、施設において提供するサービス等の検討に職員が参画しており、このことにより地域のニーズや施設運営に対する職員の意識が向上し、働きがいの向上にもつながった。

- (3) 以上のとおり、京北病院においては、当審議会の提言に対し、一定の取組が行われたものと認められる。しかし、平成23年度からの黒字基調への転換に向けては、厳しい状況が続いていることに変わりはなく、今後は、自律的、弾力的な経営が行える地方独立行政法人のメリットを十分に発揮し、引き続き医師の確保に取り組むとともに、現在の常勤医師に過度の負担がかかることのないよう、市立病院からのサポートを継続されたい。また、地域包括ケアについては、高齢者のニーズに合わせて、医療と介護を一体的かつ的確に提供できる体制を構築するなど、地域住民の京北病院に対する期待に応えられるよう取り組み、経営の立て直しを図られたい。

おわりに

平成23年4月の法人設立による病院運営主体の移行、新館整備事業の実施、介護老人保健施設の開設等は、京都市の積極、果敢な病院事業改革における大きな一歩であると評価する。

今後の病院事業改革の取組は、地方独立行政法人法に基づき、京都市が定める中期目標による指示の下で、法人が中期計画や年度計画に基づき進めていくことになるため、当審議会が行うプランの進捗状況の点検・評価は、本年度が最後となる。

京都市においては、法人が中期目標により指示された事項を達成することにより、自治体病院としての役割を継続して適切に果たすことができるよう、運営費交付金や長期貸付金について責任をもって確保することが必要である。

法人においては、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に生かし、経営者の権限と責任を十分に発揮し、効率的で透明性のある運営を行うことにより、長期的に安定した経営基盤の構築と、医療の質をはじめとした市民サービスの向上を図ることが重要である。

本審議会としては、京都市と法人とが十分に連携しながら互いの役割を果たすことにより、法人の設置し、運営する施設が、市民に信頼される施設として発展し続けることを期待するものである。

(参考)

1 「平成22年度 京都市病院事業特別会計の決算概要」について (別紙1参照) 標記資料(京都市作成,平成23年7月26日広報発表)を別紙1として添付している。

2 京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」及び「数値目標」の評価の考え方

(1) 「具体的取組事項」について (別紙2-1)及び(別紙2-2)参照)

評価は,定性的な項目が多いことを踏まえ,前年度と同様○,△,×の3段階で行った。すなわち,プランに取組事項として記載された内容に沿って取組が行われ,又はそこに掲げられた目標が達成されたものは○,一部しか実施されていないもの,又は一部未達成の事項があるものは△,実施されていないもの又は未達成のものは×とした。

なお,数値目標が掲げられている一部の項目については,ある取組をすること又は記述された結果を出すことが求められており,数値目標が参考的な指標とされている場合は,その取組や結果を実現できたかを基本として評価を行い,取組事項が直接数値目標の達成を目指している場合は,当該数値目標の達成状況により評価を行った。

(2) 「数値目標」について (別紙3-1)及び(別紙3-2)参照)

一部の取組事項について掲げられている年次ごとの数値目標については,数値による定量的,機械的な評価ができることから,前年度と同様◎,○,△,▲,×の5段階で行った。すなわち,プラン最終年度である平成23年度の目標が前倒しして達成されたものは◎,平成22年度の目標が達成されたものは○,平成22年度の目標が概ね達成されたものは△,平成22年度の目標は未達成であったが平成21年度の実績より改善したものは▲,未達成のものは×とした。

平成22年度 京都市病院事業特別会計の決算概要

収 益 的 収 入	141億95百万円
収 益 的 支 出	140億27百万円
当 年 度 純 △ 損 益	1億68百万円 (21年度 3百万円)
累 積 欠 損 金	△4億83百万円 (21年度 △6億51百万円)

注)京都市病院事業特別会計は、市立病院事業及び市立京北病院事業により構成している。

第1 市立病院

1 業 務 量

区 分		平成21年度	平成22年度	増 △ 減
入	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
	稼 働 病 床 数	540 床	540 床	0 床
	稼働病床利用率	81.8 %	83.8 %	2.0 点
	延 べ 患 者 数	161,234 人	165,182 人	3,948 人
	1日平均患者数	442 人	453 人	11 人
	実 患 者 数	10,490 人	10,572 人	82 人
	平均在院日数	14.4 日	14.6 日	0.2 日
院	感 染 症			
	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
	稼 働 病 床 数	8 床	8 床	0 床
外	延 べ 患 者 数	223 人	222 人	△ 1 人
	診 療 日 数	242 日	243 日	1 日
	延 べ 患 者 数	312,017 人	300,735 人	△ 11,282 人
来	1日平均患者数	1,289 人	1,238 人	△ 51 人

2 主な建設改良工事

(1) 主な施設整備事業

市立病院整備事業	4億7,774万円
本館非常用発電機改修工事	2,499万円

(2) 主な医療機器等整備事業

地方独立行政法人京都市立病院機構に向けたイントラネット基盤整備	2,977万円
デジタルX線透視診断TV装置	2,972万円

3 財政状況

項目		年度	平成21年度 (消費税抜額)		平成22年度 (消費税抜額)		増△減		
			億	百万円	億	百万円	億	百万円	
常	収	医業収益	116	18	122	74	6	56	
		診療収入	101	48	108	35	6	87	
		入院収益	73	83	79	52	5	69	
		外来収益	27	65	28	83	1	18	
		一般会計負担金	13	22	12	96	△	26	
		その他医業収益	1	48	1	43	△	5	
	入	医業外収益	10	76	11	57		81	
		一般会計負担金	6	42	6	44		2	
		一般会計補助金	2	09	2	09		0	
		国府補助金等その他医業外収益	2	25	3	04		79	
計		126	94	134	31	7	37		
損	支	医業費用	119	24	123	95	4	71	
		給与費	68	76	70	21	1	45	
		材料費	26	30	25	19	△	111	
		経費その他	18	21	22	33	4	12	
		減価償却費・資産減耗費	5	97	6	22		25	
	出	医業外費用	6	68	4	88	△	180	
		支払利息等	2	40	1	02	△	138	
計		125	92	128	83	2	91		
差	引	1	02	5	48	4	46		
特	別	損	益	76	△	284	△	360	
当	年	度	純	損	益	1	78	2	64
累	積	損	益	48	3	12	2	64	
資本的収支	収	入	32	11	7	67	△	2444	
	支	出	40	82	18	10	△	2272	
	差	引	△	871	△	1043	△	172	

4 企業債の状況

項目	年度	平成21年度末		平成22年度中増△減				平成22年度末			
		未償還残高		発行額		償還額		差引		未償還残高	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円
建設企業債		67	12	7	14	△	979	△	265	64	47

第2 市立京北病院

1 業務量

区 分		平成21年度	平成22年度	増△減	
入 院	一 般	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
		稼働病床数	41 床	38 床	△ 3 床
		稼働病床利用率	63.6 %	52.2 %	△ 11.4 ポイント
		延べ患者数	9,520 人	7,665 人	△ 1,855 人
		1日平均患者数	26 人	21 人	△ 5 人
		平均在院日数	20.5 日	18.1 日	△ 2.4 日
	療 養	診 療 日 数	365 日	365 日	0 日
		稼働病床数	26 床	29 床	3 床
		稼働病床利用率	81.0 %	77.2 %	△ 3.8 ポイント
		延べ患者数	7,683 人	7,538 人	△ 145 人
		1日平均患者数	21 人	21 人	0 人
	計	稼働病床数	67 床	67 床	0 床
		稼働病床利用率	70.3 %	62.2 %	△ 8.1 ポイント
		延べ患者数	17,203 人	15,203 人	△ 2,000 人
		1日平均患者数	47 人	42 人	△ 5 人
	外 来	診 療 日 数	242 日	243 日	1 日
延べ患者数		32,523 人	30,454 人	△ 2,069 人	
1日平均患者数		134 人	125 人	△ 9 人	
診 療 所	診 療 日 数	242 日	243 日	1 日	
	延べ患者数	2,614 人	1,787 人	△ 827 人	
	1日平均患者数	11 人	7 人	△ 4 人	
居 宅	診 療 日 数	242 日	243 日	1 日	
	延べ患者数	3,870 人	4,814 人	944 人	
	1日平均患者数	16 人	20 人	4 人	

注) 平成22年12月までは、一般診療稼働病床数41床、療養診療稼働病床数26床

2 主な建設改良工事

主な施設整備事業

給湯設備改修工事(病棟, 診療棟)	3,504万円
病棟空調設備改修電気設備工事	3,268万円
病棟空調設備改修工事	2,453万円
病棟ナースコール設備改修工事	959万円
病棟内装等改修工事(老健施設転換改修)	502万円

3 財政状況

項目		年度	平成21年度 (消費税抜額)		平成22年度 (消費税抜額)		増△減			
			億	百万円	億	百万円	億	百万円		
経常	収	医業収益	6	78	6	82		4		
		診療収入	5	62	5	30	△	32		
		入院収益	3	40	3	14	△	26		
		外来収益	1	72	1	61	△	11		
		診療所収益		13		9	△	4		
		居宅サービス事業収益		37		46		9		
	入	一般会計負担金	1	01	1	39		38		
		その他医業収益		15		13	△	2		
		医業外収益		82		82		0		
		一般会計負担金		40		40		0		
		一般会計補助金		25		25		0		
		国府補助金等その他医業外収益		17		17		0		
		計		7	60		7	64		4
損益	支	医業費用	9	06	8	24	△	82		
		給与費	5	78	5	47	△	31		
		材料費		62		43	△	19		
		経費その他	1	98	1	92	△	6		
		減価償却費・資産減耗費		68		42	△	26		
		医業外費用		28		31		3		
		支払利息等		16		15	△	1		
		その他		12		16		4		
計		9	34		8	55	△	79		
差引		△	1	74	△	91		83		
特別損益			0		△	5	△	5		
当年度純損益		△	1	74	△	96		78		
累積損益		△	6	99	△	7	95	△	96	
資本的収支	収	入		5		1	09		1	04
	支	出		53		1	53		1	00
	差引		△	48	△	44				4

4 企業債の状況

項目	年度	平成21年度末		平成22年度中増△減				平成22年度末			
		未償還残高		発行額		償還額		差引		未償還残高	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円	億	百万円
建設企業債		4	45		9	△	45	△	36	4	09

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況
 (京都市立病院)

評価結果案	該当項目数	
	22年度	【参考】21年度
○=実施又は達成	33	33
△=一部実施又は一部達成	4	4
×=未実施又は未達成	5	5
計	42	42

うち6項目については、関連する年次ごとの「数値目標」(計21項目。達成状況は別紙3-1参照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
2	事業運営の目標				
(1)	市民の皆様に親しまれ、愛され、信頼される市立病院を目指して				
1	ア	医療機能の維持・向上			
		<p>計画的に医療機器の整備・充実を図り、医療機能の維持・向上に努めます。</p> <p>平成22年度に取得した主な医療機器 デジタルX線透視診断TV装置（更新）30百万円 外科画像超音波診断システム（更新）14百万円</p> <p>平成22年度の医療機器購入額 177百万円（過去5年間の平均369百万円） (㊦432百万円)</p>	○	○	
2		<p>「地域医療支援病院」の早期承認を目指して、紹介率・逆紹介率の向上や地域の医療機関との連携に取り組みます。</p> <p>紹介率・逆紹介率の向上 ・紹介率 年度目標 43.3% → 実績 44.0% (㊦42.2%) ・逆紹介率 年度目標 64.0% → 実績 72.5% (㊦68.0%)</p> <p>地域の医療機関との連携 ・登録医数 221人 (㊦66人) ・入院病床の共同利用実績 8件 (㊦5件) ・高額医療機器共同利用 323件 (㊦283件) ・地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施 30回延べ925人（うち院外389人）参加 (㊦33回延べ820人（うち院外270人）参加) ・医療機関への訪問活動の実施（平成23年1月～） 34件</p> <p>(参考) 地域医療支援病院の承認（市内5番目，府内8番目） ・平成21年9月1日</p>	○	○	

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
3	イ 医療技術の向上	医療技術の向上のため、医師等の学会や研修会への参加、院内研修会の実施を積極的に行います。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 医師の学会出張に係る1人平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 常勤医師 3.9回/人 (317回/81人) 専攻医 2.3回/人 (88回/38人) 臨床研修医 0.6回/人 (15回/27人) 合計 2.9回/人 (420回/146人) (㉔473回 ㉕518回) 平成22年度 コメディカルの学会等の平均参加回数 <ul style="list-style-type: none"> 理学療法士, 作業療法士 0.4回/人 (3回/7人) 放射線技師 0.7回/人 (15回/23人) 栄養士 0.8回/人 (4回/5人) 検査技師 1.3回/人 (39回/31人) 薬剤師 3.0回/人 (64回/21人) 合計 1.4回/人 (125回/87人) (㉔78回 ㉕117回) 平成22年度 医療安全に係る安全管理のための院内研修 25回実施 (㉔29回) 	○	○
		職員の専門性を高めるため、専門医、指導医、認定看護師、癌化学療法専門薬剤師、医学物理士(放射線治療)、細胞検査士等、各種の資格取得や認定を受けられるよう取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度 市立病院が位置付けられている認定研修施設等 57件 (㉔49件) 平成22年度 認定医等の資格取得支援(医師の学会出張延べ人数) 合計420人 (㉔518人) 平成22年度 有資格者在籍数 <ul style="list-style-type: none"> 指導医 36人 (㉔34人) 専門医 38人 (㉔45人) 認定看護師 6人 (㉔6人) がん指導薬剤師 1人 (㉔0人) 医学物理士 1人 (㉔1人) 細胞検査士 4人 (㉔4人) 	○	○
4					

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
5	ウ	市民ニーズへの対応			
		これまでから、「女性総合外来」、「SARS対応」、「男性専門外来」、「セカンドオピニオン外来」、「緩和ケア外来」等、市民ニーズへの的確な対応を図ってきており、今後とも、関係部局・関係機関との連携を図りながら、常に迅速かつ適切な課題への対応を行います。	各専門外来の実績 (22年度) (21年度) 女性総合外来 78件 158件 男性専門外来 38件 30件 セカンドオピニオン外来 18件 14件 禁煙外来 71件 51件	○	○
6	エ	患者サービスの向上			
		ユニバーサルデザインの考え方に基づく環境づくりや、職員の接遇・対応の一層の向上に努める。	○ユニバーサルデザインの考え方に基づき療養環境の向上等を図るため、次の事項等についてSPC（特別目的会社）と協議を行い、新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。 ・受付やスタッフステーションのカウンターの高さ、衛生機器の形状 ・JIS（日本工業規格）のユニバーサルデザインに適合した新館及び本館のサイン ○外部講師を招いて接遇研修を実施した。 （平成22年12月2日実施）	○	○

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																										
7		<p>入院患者への定期的なアンケートの実施等により、患者サービスの向上の取組を評価し、必要な改善策を講じることで、患者満足度を高めます。</p>	<p><患者満足度アンケート調査></p> <p>入院 平均点 (5点満点)</p> <table border="1" data-bbox="1182 295 1608 491"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院生活</td> <td>3.93</td> <td>3.92</td> </tr> <tr> <td>食 事</td> <td>3.79</td> <td>3.84</td> </tr> <tr> <td>説 明</td> <td>4.18</td> <td>4.30</td> </tr> <tr> <td>職員の対応</td> <td>4.37</td> <td>4.38</td> </tr> <tr> <td>(うち身だしなみ)</td> <td>4.40</td> <td>4.46</td> </tr> <tr> <td>診療・看護内容</td> <td>4.57</td> <td>4.57</td> </tr> </tbody> </table> <p>外来</p> <table border="1" data-bbox="1182 560 1729 756"> <thead> <tr> <th></th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>待ち時間「長い」</td> <td>39%</td> <td>25%</td> </tr> <tr> <td>診療への評価「満足」「やや満足」</td> <td>76%</td> <td>76%</td> </tr> <tr> <td>職員の対応「満足」「やや満足」</td> <td>78%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>職員の対応満足度(5点満点)</td> <td>4.4点</td> <td>4.4点</td> </tr> <tr> <td>院内の清潔感「清潔」「大体清潔」</td> <td>81%</td> <td>80%</td> </tr> <tr> <td>家族に勧められるか「勧める」</td> <td>74%</td> <td>72%</td> </tr> </tbody> </table> <p><診療待ち時間アンケート> 平均待ち時間 (加重平均) 平成22年10月 58.3分 (平成21年10月 62.4分)</p> <p><御意見箱に寄せられた御意見に基づく主な改善事例></p> <ol style="list-style-type: none"> ①院内の売店で京都市交通局のトラフィカカードの販売を開始した。 ②クレジットカードでの支払いを導入した。 ③憩いの広場を整備した。 ④病院食について2週間サイクルから3週間サイクルメニューに変更した。 ⑤職員用駐輪場を新たに整備し、来院者が来院者用駐輪場により多く駐輪できるようにした。 ⑥北館に入院受付カウンターを設置した。 ⑦本館1階出入口付近に時計を設置した。 ⑧介護タクシーの駐車スペースをロータリー内に移動し、障害者用駐車場を1台分増やした。 		21年度	22年度	入院生活	3.93	3.92	食 事	3.79	3.84	説 明	4.18	4.30	職員の対応	4.37	4.38	(うち身だしなみ)	4.40	4.46	診療・看護内容	4.57	4.57		21年度	22年度	待ち時間「長い」	39%	25%	診療への評価「満足」「やや満足」	76%	76%	職員の対応「満足」「やや満足」	78%	85%	職員の対応満足度(5点満点)	4.4点	4.4点	院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	81%	80%	家族に勧められるか「勧める」	74%	72%	○	△ 〔入院○ 外来×〕
	21年度	22年度																																													
入院生活	3.93	3.92																																													
食 事	3.79	3.84																																													
説 明	4.18	4.30																																													
職員の対応	4.37	4.38																																													
(うち身だしなみ)	4.40	4.46																																													
診療・看護内容	4.57	4.57																																													
	21年度	22年度																																													
待ち時間「長い」	39%	25%																																													
診療への評価「満足」「やや満足」	76%	76%																																													
職員の対応「満足」「やや満足」	78%	85%																																													
職員の対応満足度(5点満点)	4.4点	4.4点																																													
院内の清潔感「清潔」「大体清潔」	81%	80%																																													
家族に勧められるか「勧める」	74%	72%																																													

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
8	オ	職員のモチベーションの向上			
		職員にとって働き甲斐があり、満足度の高い職場づくりを進めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見箱に寄せられた御意見のうち職員等への感謝の意見(意見は、サービス向上委員会での周知に加え、職員本人にも伝達) 35件 (㊟38件) ・医師における地域手当の段階的引き上げ(一般職員10%) 平成19年度 12%, 平成20年度 13% 平成21年度 14%, 平成22年度 15% ・医師, 看護師等の専門知識の向上, 自己研鑽のきっかけとなる学会出張に係る経費の病院負担等の実施 ・医療安全管理研修会等の研修会を開催(内容については概ね好評であり, インシデント報告件数の増に見られるように, より良い医療安全対策を講じていく組織風土の醸成につながった。) 	○	○
9	カ	病院機能評価の受審(更新)			
		平成21年度における「病院機能評価」の認定の更新を目指し, 継続的に改善を行います。	<p>平成21年度に実施済み</p> <p>(参考) 平成22年2月9日に認定更新 全246項目中, 5段階評価で4以上の評価を得た項目の割合87%</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(2) 安全で安心できる市民生活を支える医療提供					
10	ア 医療安全推進の取組	<p>これまでから、医療事故に係る公表基準の策定や複数の専従・専任安全マネージャーの配置、医療安全管理委員会活動の強化等、医療安全管理体制の再点検と改善に取り組んできており、今後とも、引き続き職員一丸となって、市民の皆様の期待に応えられる安全な医療の提供に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全全国フォーラムにおいて、医療安全全国共同行動優秀活動賞を全国で唯一受賞（平成22年11月） ・医療安全管理委員会の開催（毎月3回） インシデント・アクシデントの原因分析や改善策を議論し、各部署にフィードバック ・医療安全管理研修会 25回実施（㊤29回） ・モーニング・カンファレンス、ランチョンセミナー実施 ・患者誤認対策キャンペーンの実施 ・医療安全掲示板に「共有すべき医療事故情報」毎月掲示 ・インシデント報告を周知徹底 <p>【インシデントの件数】 21年度 873件→22年度 1,149件</p> <p>【アクシデントの件数】 21年度 32件→22年度 108件</p>	○	○
	イ 院内感染防止対策	<p>感染防止委員会の着実な実施や、MRSA対策をはじめとする院内感染防止対策マニュアルの徹底、研修会の実施等の取組を推進します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度感染防止委員会開催実績 計12回（㊤12回） ・感染症内科部長をリーダーとする「感染制御チーム」（ICT）の活動を通じて、感染状況の把握に努めるとともに、病院各部門への指導や啓発を強化している。 <p><平成22年度の活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 院内ラウンド（週2回） 院内ミーティング（月2回） 院内研修会の開催（ICT主催6回） ICTニュース発行（12回/年） など 	○	○
11					

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(3)	自治体病院としての政策医療の機能強化				
12	ア	新型コロナウイルス対策			
		<p>新型コロナウイルスの流行時には、他の医療機関との協力のもとに市立病院全体で対応することを既に表明しており、市内で唯一の感染症指定医療機関としての責務を果たします。</p>	<p>○平成21年度に実施済み ○平成22年度の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス診察数 1,424人 (㊤5,366人) ・新型コロナウイルス入院者数 21人 (㊤ 82人) ・インフルエンザワクチン予防接種実施者数 1,664人 (㊤新型コロナウイルスワクチン予防接種実施者数2,726人) <p>(参考) 平成21年度に新型コロナウイルス感染が拡大した際には、国内初の感染患者が発生した日に、直ちに24時間体制の「発熱外来」を設置し、京都市域における中心的役割を果たした。</p>	○	○
13	イ	大規模災害・事故対策			
		<p>大規模災害・事故の発生に備え、多数の患者を収容できるホールや災害時緊急医療機器の整備を行うとともに、DMAT（災害派遣医療チーム）を組織し、各種の訓練に積極的に参加するなど、災害拠点病院としての役割を果たします。</p>	<p>○災害拠点病院にふさわしい施設整備を行うため、引き続き準備工事を実施するとともに、次の事項を盛り込んだ新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポートを設置 ・新館を免震構造化 ・非常用発電機を増設 ・燃料槽を拡張、備蓄水槽を設置 ・備蓄の倉庫を整備 ・新館外来待合室等に、一時的に多数の患者を収容し、処置を行える設備を設置 <p>○各種訓練への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度近畿地方DMAT訓練（平成22年7月28日～29日、5名参加） ・平成22年度京都市総合防災訓練（平成22年9月4日、6名参加） ・平成22年度京都府・京都市国民保護共同訓練（平成22年10月12日、6名参加） <p>○東日本大震災被災地(岩手県花巻市)へDMATチームを派遣(平成23年3月12日～14日、3名派遣)</p> <p>○呼気二酸化炭素検知器の新規購入</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																
14	ウ 救急医療への対応	<p>関係機関との連携・役割分担を踏まえ、より多くの救急搬送を受け入れるとともに、引き続き、救急患者が入院を必要とする場合にも円滑に対応できるよう取り組むなど、自治体病院としての責務を果たします。</p>	<p>・救急車受入件数は、平成21年度に引き続き過去最高を記録し、プランの目標を達成した。 ・救急患者数は、救急車受入件数や、救急入院患者数の増（平成11年度以降最高）を達成するなど、重症の救急患者を積極的に受け入れたが、目標には届かなかった。</p>	<p>△ 救急患者数× 救急車受入件数 ○</p>	<p>△ 救急患者数○ 救急車受入件数 ×</p>																																
		<数値目標>																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>(参考) 20年度実績</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th></th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>19,123人</td> <td>23,234人</td> <td>○</td> <td>23,134人</td> <td>20,377人</td> <td>×</td> <td>△ 2,757人</td> <td>21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>救急車受入件数</td> <td>2,786件</td> <td>3,095件</td> <td>▲</td> <td>3,362件</td> <td>3,843件</td> <td>◎</td> <td>481件</td> <td>原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明		実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	救急患者数	19,123人	23,234人	○	23,134人	20,377人	×	△ 2,757人	21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。	救急車受入件数	2,786件	3,095件	▲	3,362件	3,843件	◎	481件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。		
		目標項目		(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度					差引 (22実績-22目標)	説明																								
	実績		達成状況	数値目標	実績	達成状況																															
救急患者数	19,123人	23,234人	○	23,134人	20,377人	×	△ 2,757人	21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受け入れを行ったが、目標には届かなかった。																													
救急車受入件数	2,786件	3,095件	▲	3,362件	3,843件	◎	481件	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。																													
15	エ 地域周産期母子医療センターとしての対応	<p>地域周産期母子医療センターとして、関係機関との役割分担を踏まえ、合併症妊娠分娩やハイリスク妊娠に対しても、院内の小児科や関係各科の医師との緊密な連携のもと、母子とも安全な分娩管理を行い、他の医療機関からの母体搬送も受け入れることにより、自治体病院としての責務を果たします。</p>	<p><平成22年度の主なハイリスク分娩> 帝王切開79件（うち緊急帝王切開50件） （㊦82件、うち緊急帝王切開51件） 切迫早産36件（㊦48件） <平成22年度の母体搬送の救急受入実績> 受入45件（㊦55件）</p>	○	○																																

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																															
(4)	京都市の中核病院としての機能																																			
16	ア	地域医療連携の推進																																		
		市立病院の高額医療機器や入院病床の共同利用、地域医療フォーラム等の取組を積極的に展開してきており、今後、更に病診連携・病病連携に取り組み、紹介率・逆紹介率の向上を図ります。	高額医療機器共同利用 平成22年度 323件 (㊤283件) 入院病床の共同利用 平成22年度 8件 (㊤5件) 地域医療フォーラム 2回開催、延べ277人(うち院外173人)参加 ・平成22年9月18日 147人(うち院外 91人) ・平成23年2月12日 130人(うち院外 82人) (㊤2回開催、延べ204人(うち院外87人)参加) 地域医療従事者に対する研修会・カンファレンスの実施 (各診療科等が主催) 30回実施、延べ925人(うち院外389人)参加 (㊤33回実施、延べ820人(うち院外270人)参加) 医療機関への訪問活動の実施(平成23年1月～)34件	○	○																															
17		地域医療支援病院の早期承認を目指します。	平成21年度に実施済み (参考) 地域医療支援病院の承認 ・平成21年9月1日	○	○																															
		<数値目標>																																		
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>(参考)</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>20年度実績</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>41.3%</td> <td>42.2%</td> <td>○</td> <td>43.3%</td> <td>44.0%</td> <td>○</td> <td>+0.7ポイント</td> <td rowspan="2">地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒しで達成</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>64.0%</td> <td>68.0%</td> <td>◎</td> <td>64.0%</td> <td>72.5%</td> <td>◎</td> <td>+8.5ポイント</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	紹介率	41.3%	42.2%	○	43.3%	44.0%	○	+0.7ポイント	地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒しで達成	逆紹介率	64.0%	68.0%	◎	64.0%	72.5%	◎	+8.5ポイント		
目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明																												
	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況																														
紹介率	41.3%	42.2%	○	43.3%	44.0%	○	+0.7ポイント	地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒しで達成																												
逆紹介率	64.0%	68.0%	◎	64.0%	72.5%	◎	+8.5ポイント																													

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(5) 病院運営の改善					
19	ア	PFI手法による整備運営事業の実施			
		耐震性等に課題がある北館の改築及び本館の改修と、施設の管理、医療周辺業務等の運營業務をPFI手法により実施することとして、現在、入札に向けた手続を進めているところであり、今後とも、この手法によりサービスの質の維持・向上に努めながら、施設整備や管理運営コストを最小化します。	<p>○薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC（特別目的会社）に業務を委託した。</p> <p>○設計・建築業務については、引き続き準備工事を実施するとともに、基本設計を完了し、実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新館等の基本設計完了（平成22年10月） ・職員宿舎・院内保育所の基本設計完了（平成23年1月） <p>○運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。</p>	○	○
20	イ	経営改善の取組			
		平成22年度末に累積赤字を解消するという目標を達成するとともに、以下の「経営計画」に示す、新たな数値目標を設定し、更なる経営改善に取り組みます。	<p>平成21年度末に、前倒しで累積赤字を解消した。平成22年度においても、過去最高となる単年度黒字を確保し、累積黒字額を積み増すことができた。</p> <p>(累積損益額)</p> <p>20年度末 △130百万円</p> <p>21年度末 48百万円</p> <p>22年度末 312百万円</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績				22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																																										
3	経営計画																																																																	
	(2) 新たな中期財政運営目標																																																																	
21	ア 入院	<p>平均在院日数の短縮と病床利用率の向上を図ることにより、より多くの患者の受入れと診療報酬のアップを目指します。</p>	<p>平均在院日数は、21年度と比較して、0.2日の微増となったが、プランの最終年度の目標値14.6日を達成している。</p> <p>しかし、一般病床利用率、延べ患者数及び実患者数については、21年度の実績を上回ったものの、目標には届かなかった。</p> <p>診療報酬単価は、10年ぶりの診療報酬のプラス改定の影響を受け、4万8千円台にまで上がったが、目標にはわずかに届かなかった。</p>				×	×																																																										
		<数値目標>																																																																
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">目標項目</th> <th>(参考)</th> <th colspan="2">(参考)21年度</th> <th colspan="3">22年度</th> <th rowspan="2">差引 (22実績-22目標)</th> <th rowspan="2">説明</th> </tr> <tr> <th>20年度実績</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> <th>数値目標</th> <th>実績</th> <th>達成状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>15.6日</td> <td>14.4日</td> <td>◎</td> <td>14.9日</td> <td>14.6日</td> <td>◎</td> <td>△ 0.3日</td> <td>23年度目標(14.6日)を前倒して達成</td> </tr> <tr> <td>一般病床利用率</td> <td>79.7%</td> <td>81.8%</td> <td>▲</td> <td>88%</td> <td>83.8%</td> <td>▲</td> <td>△ 4.2%</td> <td>延べ患者数が目標に達しなかったため、病床利用率も目標を下回った。</td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (延べ患者数)</td> <td>168,263人</td> <td>161,457人</td> <td>×</td> <td>173,401人</td> <td>165,404人</td> <td>▲</td> <td>△ 7,997人</td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院患者数 (実患者数)</td> <td>10,122人</td> <td>10,490人</td> <td>▲</td> <td>10,954人</td> <td>10,572人</td> <td>▲</td> <td>△ 382人</td> <td>実患者数は過去最高となったが、目標には届かなかった。</td> </tr> <tr> <td>診療報酬単価</td> <td>45,737円</td> <td>45,742円</td> <td>▲</td> <td>48,967円</td> <td>48,080円</td> <td>▲</td> <td>△ 887円</td> <td>21年度と比較して大幅に改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	平均在院日数	15.6日	14.4日	◎	14.9日	14.6日	◎	△ 0.3日	23年度目標(14.6日)を前倒して達成	一般病床利用率	79.7%	81.8%	▲	88%	83.8%	▲	△ 4.2%	延べ患者数が目標に達しなかったため、病床利用率も目標を下回った。	入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	161,457人	×	173,401人	165,404人	▲	△ 7,997人		入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,490人	▲	10,954人	10,572人	▲	△ 382人	実患者数は過去最高となったが、目標には届かなかった。	診療報酬単価	45,737円	45,742円	▲	48,967円	48,080円	▲	△ 887円	21年度と比較して大幅に改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。				
目標項目	(参考)	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	説明																																																										
	20年度実績	実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況																																																												
平均在院日数	15.6日	14.4日	◎	14.9日	14.6日	◎	△ 0.3日	23年度目標(14.6日)を前倒して達成																																																										
一般病床利用率	79.7%	81.8%	▲	88%	83.8%	▲	△ 4.2%	延べ患者数が目標に達しなかったため、病床利用率も目標を下回った。																																																										
入院患者数 (延べ患者数)	168,263人	161,457人	×	173,401人	165,404人	▲	△ 7,997人																																																											
入院患者数 (実患者数)	10,122人	10,490人	▲	10,954人	10,572人	▲	△ 382人	実患者数は過去最高となったが、目標には届かなかった。																																																										
診療報酬単価	45,737円	45,742円	▲	48,967円	48,080円	▲	△ 887円	21年度と比較して大幅に改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。																																																										

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績				22年度 評価案	(参考) 21年度評価		
22	イ 外来	診療所や小規模病院との間の患者紹介率及び逆紹介率を高め、平成23年度において、入院・外来比率1:1.7を目指します。	平成21年度と比較して、入院延べ患者数の増加及び外来延べ患者数の減少により入院・外来比率は改善したが、目標には届かなかった。				×	×		
		<数値目標>								
		目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度 実績	達成状況	22年度 数値目標	実績	達成状況	差引 (22実績-22目標)	説明
		入院・外来比率	1:1.81	1:1.93	×	1:1.71	1:1.82	▲	0.11	改善したが、目標には届かなかった。
		延べ患者数	304,723人	312,017人	×	296,516人	300,735人	▲	4,219人	紹介率及び逆紹介率の増等により減少したが、目標には届かなかった。
1日当たり患者数	1,254人	1,289人	×	1,210人	1,238人	▲	28人			
診療報酬単価	8,514円	8,862円	○	8,559円	9,588円	○	1,029円	外来化学療法等によるもの		
23	ウ 運営収支	経営改善により、平成21年度(計画初年度)の単年度収支で黒字基調とし、平成22年度末までに累積赤字を解消した上、平成23年度以降の更なる経営改善を目指します。	収入は入院収益を主とした大幅な増収を受け、過去最高となる単年度黒字を確保し、累積黒字額を積み増すことができた。				○	○		
		<数値目標>								
		目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度 実績	達成状況	22年度 数値目標	実績	達成状況	差引 (22実績-22目標)	説明
		収益的収入	13,027百万円	12,694百万円	×	13,676百万円	13,431百万円	▲	△ 245百万円	入院収益が目標に届かなかったことによるもの
		収益的支出	12,992百万円	12,592百万円	○	13,042百万円	12,883百万円	◎	△ 159百万円	材料費減によるもの
単年度収支	35百万円	178百万円	△	634百万円	264百万円	▲	△ 370百万円	改善したが、目標には届かなかった。		
累積収支	△ 130百万円	48百万円	▲	716百万円	312百万円	▲	△ 404百万円	//		
経常収支比率	100.3%	100.8%	▲	104.9%	104.3%	△	△ 0.6ポイント	ほぼ達成		
職員給与費対 医業収益比率	61.1%	64.4%	×	57.5%	61.6%	▲	+4.1ポイント	医業収益が目標に届かなかったこと及び職員給与費のうち退職手当等が増となったことによるもの		

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(3) 経営効率化に関する考え方					
24	ア	民間的経営手法の導入			
	(ア)	PFI手法により整備運営事業を実施します。 (再掲：2－(5)－ア)	<p>○薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC（特別目的会社）に業務を委託した。</p> <p>○設計・建築業務については、引き続き準備工事を実施するとともに、基本設計を完了し、実施設計に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新館等の基本設計完了（平成22年10月） ・職員宿舎・院内保育所の基本設計完了（平成23年1月） <p>○運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。</p>	○	○
25	(イ)	平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。	<p>○平成22年4月に地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会（以下、本項において「委員会」という。）を設置</p> <p>○平成22年9月に理事長予定者の内定について公表。また、中期目標の策定や地方独立行政法人京都市立病院機構定款の一部改正、その他地方独立行政法人化関連議案が市会で可決された。</p> <p>○平成23年3月に地方独立行政法人京都市立病院機構に職員を引き継ぐ京都市の内部組織を定める条例が市会で可決された。</p> <p>○委員会において、平成22年度、全6回にわたり会議を開催し、中期目標、中期計画をはじめとする地方独立行政法人法により市長が策定や認可を行う際に意見を徴収すべきとされている事項や、委員会が市長に対し意見を述べることができるとされている事項のすべてについて審議した。</p> <p>※ 平成23年4月1日 地方独立行政法人京都市立病院機構設立</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
26	イ	事業規模・形態の見直し			
	(ア)	新棟整備等によって、感染症医療や救急医療、災害時医療等の政策医療機能、がんや生活習慣病への高度医療機能、地域医療の支援機能を拡充します。	○次の事項を盛り込んだ、新館新築及び本館改修等の実施設計に着手した。 ・感染症外来の設置や、感染症外来から感染症病床への直通エレベータを設置等 ・救命救急室の面積を4倍に拡張 ・ヘリポートを設置 ・新館の免震構造化 ・非常用発電機の増設等 ・外来化学療法室の拡充 ・心臓・脳・血管病センター（仮称）を設置	○	○
	(イ)	新棟整備等に当たり、現在の延べ入院患者数を維持しつつ、病床を効率的に利用するとともに、安定した病院経営を行うため、現行の586床から38床減の548床（一般病床540床、感染症病床8床）とします。これを先行実施するものとして、平成21年3月に1病棟を休止し、当該病棟の看護師を他の部署へ再配置することにより、医療機能の拡充と医療安全の推進を図ります。	平成20年度、平成21年度に実施済み (参考) ・平成21年3月に1病棟を休止し、病床数を548床とした。 ・京都市病院事業条例の一部改正により、平成21年6月1日から、条例上も病床数を548床に変更した。 ・休止病棟の看護師を各病棟・救急外来へ再配置し、夜間の看護体制の充実及び夜勤時の看護師の負担軽減を図り、医療安全に配慮した体制を維持している。	○	○
27	ウ	経費削減・抑制対策			
	(ア)	後発医薬品の導入促進により材料費の節減を図ります。	・後発医薬品採用数・比率 平成20年度 147品目（9.6%） 平成21年度 161品目（11.1%） 平成22年度 172品目（12.2%） ・後発医薬品購入金額・比率 平成20年度 75百万円（6.1%） 平成21年度 101百万円（8.5%） 平成22年度 126百万円（9.9%） (参考) ・医薬品購入金額 平成20年度 1,231百万円 平成21年度 1,181百万円 平成22年度 1,278百万円 ※高額医薬品の購入金額の増等	○	○
28					

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
32	(イ)	平均在院日数を、新棟での診療を開始する平成25年度に14日にまで短縮することを目指すことにより、入院単価の確保を図ります。	平均在院日数は、21年度と比較して、0.2日の微増となったが、プランの最終年度の目標値14.6日を達成している。 入院単価は、10年ぶりの診療報酬のプラス改定の影響を受け、4万8千円台にまで上がったが、目標の達成には至らなかった。 21年度14.4日→22年度14.6日(目標14.9日) 21年度45,742円→22年度48,080円(目標48,967円)	×	×
33	(ウ)	新棟整備時と同数の一般病床数540床に対する病床利用率88%を目指します。	実患者数は、平成21年度に引き続き過去最高を更新したが、目標には届かなかった。 平均在院日数は、プランの最終年度の目標値14.6日をすでに達成している。 実患者数が過去最高とはいえ0.8%の微増にとどまったことなどにより、延べ患者数も21年度と比較して2.4%の増加にとどまった。その結果、病床利用率は上昇はしたものの、目標には届かなかった。 21年度81.8%→22年度83.8%(目標88.0%)	×	×
34	(エ)	地域医療支援病院の平成21年度中の承認を目指すことにより、収益の確保を図ります。	地域医療支援病院の承認による増収(22年度) +135,482千円(㊦+59,332千円) (参考) 地域医療支援病院の承認 ・平成21年9月1日	○	○
35	(オ)	ICU(集中治療室)を平成21年度から基準稼働することにより、収益の確保を図ります。	ICU稼働による増収(22年度) +126,024千円(特定集中治療室管理料算定実績) (㊦+78,260千円) (参考) ICUの基準稼働 平成21年6月1日から4床稼働	○	○
36	(カ)	DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求を平成21年度から導入することにより、収益の確保を図ります。	DPC導入による増収(22年度) +409,711千円(㊦+180,524千円) (参考) DPC(診断群分類別包括評価)による診療報酬請求の導入 平成21年7月1日から	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
29	(イ)	医療周辺業務の委託化を段階的に推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・医師事務作業補助者(ドクタークラーク)の配置 平成21年 3月 6名 平成21年10月 8名 平成22年 4月 13名 平成23年 4月 24名 ・薬品・診療材料等の調達業務については、平成22年4月から、SPC(特別目的会社)に業務を委託した。 ・運営・維持管理業務については、平成25年4月からのSPCによる効率的な業務開始に向けて、協議を実施した。 	○	○
30	(ウ)	平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	<p>平成20年度及び平成21年度の繰上償還により、取組は実施済み</p> <p>(参考)</p> <p><平成20年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・借換額 17百万円 利率7.15%, 8.5%→0.954% 利子負担軽減額累計 1百万円 ・借換額 1,996百万円 利率6.9, 6.6%→1.579% 利子負担軽減額累計 761百万円 <p><平成21年度></p> <ul style="list-style-type: none"> 借換額 2,797百万円 利率5.5%→0.855% 利子負担軽減額累計 935百万円 	○	○
	エ	収入増加・確保対策			
31	(ア)	専攻医の増員により収益の確保を図ります。	<p>専攻医数の推移</p> <p>平成20年度 40名→平成21年度 45名(過去最高) →平成22年度 38名</p> <p>※ 常勤医師数を維持することにより、病院全体としての診療体制に支障を来さなかった。</p>	△	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																																				
37	(キ)	未収金対策を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカードによる支払制度を導入(22年6月) ・「京都市立病院外来分個人負担金債権管理要綱」を策定 ※「京都市立病院入院分個人負担金債権管理要綱」は、21年度に策定済み <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">入 院</td> </tr> <tr> <td>収 納 率</td> <td>98.9%</td> <td>98.2%</td> <td>△ 0.7ポイント</td> </tr> <tr> <td>新規発生未収金</td> <td>7,913千円</td> <td>13,420千円</td> <td>5,507千円</td> </tr> <tr> <td>未収金残高</td> <td>152,451千円</td> <td>161,740千円</td> <td>9,289千円</td> </tr> <tr> <td colspan="4">外 来</td> </tr> <tr> <td>収 納 率</td> <td>99.4%</td> <td>99.6%</td> <td>+0.2ポイント</td> </tr> <tr> <td>新規発生未収金</td> <td>3,175千円</td> <td>2,267千円</td> <td>△ 908千円</td> </tr> <tr> <td>未収金残高</td> <td>15,908千円</td> <td>17,368千円</td> <td>+1,460千円</td> </tr> </tbody> </table> <p>※入院の区分における平成22年度の新規発生未収金額(13,420千円)は、平成15年度以降、平成21年度に続き2番目に低い水準ではあった。</p>	区 分	21年度	22年度	増 減	入 院				収 納 率	98.9%	98.2%	△ 0.7ポイント	新規発生未収金	7,913千円	13,420千円	5,507千円	未収金残高	152,451千円	161,740千円	9,289千円	外 来				収 納 率	99.4%	99.6%	+0.2ポイント	新規発生未収金	3,175千円	2,267千円	△ 908千円	未収金残高	15,908千円	17,368千円	+1,460千円	△	○
区 分	21年度	22年度	増 減																																						
入 院																																									
収 納 率	98.9%	98.2%	△ 0.7ポイント																																						
新規発生未収金	7,913千円	13,420千円	5,507千円																																						
未収金残高	152,451千円	161,740千円	9,289千円																																						
外 来																																									
収 納 率	99.4%	99.6%	+0.2ポイント																																						
新規発生未収金	3,175千円	2,267千円	△ 908千円																																						
未収金残高	15,908千円	17,368千円	+1,460千円																																						
38	オ その他 (ア)	診療科別収支計算などの管理会計の充実を継続的に実施します。	診療科別収支計算などを導入するに当たって、SPC(特別目的会社)等の支援を受け、検討を進めた。	△	△																																				
(4) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方																																									
39	ア 定員管理の取組	<p>現行の経営形態においては、「京都未来まちづくりプラン」に基づく京都市全体の取組の趣旨を踏まえ、病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組みます。</p>	<p>医療周辺業務については委託化を推進するとともに、必要な職員を配置することにより、人員が増大することを抑制しつつ、業務の遂行に対応した。</p> <p>実配置 平成20年度末665名 平成21年度末681名 平成22年度末679名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>増 減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師・歯科医師</td> <td>78</td> <td>79</td> <td>+1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>459</td> <td>456</td> <td>△ 3</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>94</td> <td>94</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務・技術</td> <td>45</td> <td>45</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>681</td> <td>679</td> <td>△ 2</td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	21年度	22年度	増 減	医師・歯科医師	78	79	+1	看護師	459	456	△ 3	コメディカル	94	94	-	事務・技術	45	45	-	その他	5	5	-	合 計	681	679	△ 2	○	○								
職種区分	21年度	22年度	増 減																																						
医師・歯科医師	78	79	+1																																						
看護師	459	456	△ 3																																						
コメディカル	94	94	-																																						
事務・技術	45	45	-																																						
その他	5	5	-																																						
合 計	681	679	△ 2																																						

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
	イ	給与の適正化の取組			
40		<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組みます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域手当の引上げ 平成19年度 12%、平成20年度 13% 平成21年度 14%、平成22年度 15% ・常勤医師の平均年収（△147千円/年） 平成21年度15,063千円 → 平成22年度14,916千円 ※ 時間外勤務手当の縮減等 <p>(参考) 初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円</p>	○	○
41		<p>職員給与費対医業収益比率が他の公立の500床以上の黒字病院と比較して高い状況を踏まえ、医業収益の増加、時間外勤務手当の縮減等に取り組むことにより、この比率の引下げを目指します。</p>	<p>医業収益の増加及び時間外勤務手当の縮減により、職員給与費対医業収益比率は平成21年度より改善した。</p> <p>〔時間外勤手当 ②0318,996千円 ②1330,682千円〕 ②305,142千円〕</p> <p>しかし、医業収益が22年度の目標には届かなかったこと及び職員給与費における国基準による共済追加費用の増加（21年度290,874千円→22年度311,885千円）や退職手当の増加（21年度421,560千円→22年度587,586千円）により、プランの目標達成には至らなかった。</p> <p>21年度64.4%→22年度61.6%（目標57.5%）</p>	×	×

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
42	(5) 一般会計における経費負担の考え方	<p>高度医療や感染症医療，二次救急医療等の政策医療については，効率的な運営に努めてもおお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については，総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実にを行うとともに，極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ，平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり総務省繰出基準による繰出しを確実にを行った。</p> <p>21年度 2,249百万円→22年度 2,149百万円</p> <p>(参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成21年度に総務省繰出基準外の繰出金は廃止 ただし，平成21年度は，新型インフルエンザの発生により，風評によると考えられる一般患者数の減少に伴い想定外の収益の減少が生じたため，その減収補てんとして76,000千円の資金を繰り出した。 	○	△

京都市病院事業改革プランに掲げた「具体的取組事項」の実施状況
(京都市立京北病院)

評価結果案	該当項目数	
	22年度	【参考】21年度
○=実施又は達成	11	12
△=一部実施又は一部達成	5	5
×=未実施又は未達成	5	4
計	21	21

うち4項目については、関連する年次ごとの「数値目標」(計19項目。達成状況は別紙3-2参照)を掲載

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績			22年度 評価案	(参考) 21年度評価		
2 事業運営の目標									
(1) 地域に密着した魅力ある病院づくり									
1		平成19年度に実施した住民意識調査の結果等を踏まえ、職員の接遇・対応の一層の向上に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・市民対応研修ビデオによる、受付対応研修の実施(1回) ・看護部における接遇に関する学習会の実施(1回) 			○	○		
2		地域組織等の協力も得る中で、京北病院のタイムリーな周知・広報に努めるとともに、健康増進セミナーの開催をはじめ、地域と連携した事業を実施し、積極的に地域の中への浸透に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・「京北タイムス」(全戸配布)による病院情報の発信 2回(㊶2回) ・「スマイル通信」(院内設置、関係医療機関送付) 3回(㊶4回) ・「健康増進セミナー」(いきいき京北地域ケア協議会共催) 1回(㊶3回) ・いきいき京北地域ケア協議会に参画…関連事業(健康増進セミナーや講演会など)・会議(要援護高齢者の情報共有など) 合計22回実施 			○	○		
3		地域で、医療・保健・福祉サービスを提供する様々な社会資源との連携を図り、京都市立京北病院を核として、医療・保健・福祉のネットワークの確立に努めます。	平成22年度から「いきいき京北地域ケア協議会」に正式参画し、関係機関と連携して関連事業(健康増進セミナーや講演会など)を実施するなど、医療・保健・福祉のネットワークの構築に努めた。			○	○		
(2) 自治体病院としての政策医療の担保									
4		地域の疾病構造に対応した、身近なかかりつけ医として、引き続き地域医療を担うとともに、地域で唯一の救急告示病院として、引き続き一次救急に取り組み、二次救急や高度医療については、京都市立病院等、市内中心部の医療機関との機能分担を図りつつ、自治体病院としての責務を果たします。	常勤医師が減員(㊶4名→㊶2名)となる厳しい診療体制下において、救急医療については、救急告示病院として一定の機能を果たし、例年に並ぶ2,163人を受け入れた。			△	△		
<数値目標>									
目標項目		(参考)20年度実績	(参考)21年度実績		22年度		差引	増減理由	
			実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況		(22実績-22目標)
延べ入院患者数		17,433人	17,203人	×	21,452人	15,203人	×	△ 6,249人	常勤医師不足による患者減
延べ外来患者数		34,455人	32,523人	×	42,282人	30,454人	×	△ 11,828人	〃
救急患者数		2,273人	2,116人	×	2,261人	2,163人	▲	△ 98人	受入患者数は増加したが、目標には届かなかった。

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価						
(3) 地域の医療ニーズに対応した診療体制の確保											
5		<p>入院・外来機能等については、中期的には、現状を基本としつつ、地域の医療ニーズに見合った機能の確保に努めます。ただし、今後2年間の稼働状況の推移等により、一定の再編・集約化にも取り組むものとしします。</p> <p>なお、国の制度改正に伴い、平成23年度末をもって廃止される、介護保険適用の療養病床については、長期にわたる高齢者の入院機能等の確保が課題となるため、単純に廃止するのではなく、廃止後の受け皿確保とセットで考えるものとし、具体的な受け皿確保の方法については、今後2年間における病床稼働率等の推移や報酬改定の動向等を見極めた上で、別途判断します。</p> <p><現在想定される受け皿確保の方法></p> <table border="1"> <tr> <td>現状維持パターン</td> <td>医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を介護療養型老人保健施設に転換</td> </tr> <tr> <td>医療療養シフト</td> <td>医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を医療保険適用に転換</td> </tr> <tr> <td>新型老健シフト</td> <td>すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換</td> </tr> </table>	現状維持パターン	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を介護療養型老人保健施設に転換	医療療養シフト	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を医療保険適用に転換	新型老健シフト	すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換	<p>京都市医療施設審議会の、「『新型老健シフト』を採用し、すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換することが最適である」旨の答申（平成22年6月）を受け、平成23年4月の介護療養型老人保健施設の開設に向けた施設改修や職員配置を含むサービス提供体制等の検討を行った。</p> <p>また、平成22年9月に、市会の議決を得て、平成22年3月に策定した地方独立行政法人京都市立病院機構定款を一部改正し、法人が京都市京北介護老人保健施設を設置及び管理することとした。</p> <p>※ 平成23年4月1日 京都市京北介護老人保健施設 (愛称：はなふるさと) 開所(29床)</p> <p>また、平成23年度からの介護老人保健施設の開所に当たって、施設において提供するサービス等の検討に職員が参画することで、地域のニーズや施設運営に対する職員の意識が向上し、働きがいの向上にもつながった。</p>	○	○
現状維持パターン	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を介護療養型老人保健施設に転換										
医療療養シフト	医療保険適用の療養病床を維持しつつ、介護保険適用の療養病床を医療保険適用に転換										
新型老健シフト	すべての療養病床を介護療養型老人保健施設に転換										
(4) 健全な病院経営への道筋											
6		<p>京都市立京北病院の中期的な展望として、一定の病院機能の再編・集約化を考える一方で、地域の医療ニーズにより対応した診療体制を確保していくことによって、患者の増加と、これに伴う収益の向上を基本として、健全な病院経営への道筋をつけていくものとし、以下の「経営計画」に示す、病院経営の数値目標の達成に取り組みます。</p>	<p>京都市医療施設審議会の答申（平成22年6月）を受け、介護療養型老人保健施設の開設に向けた施設改修や職員配置を含むサービス提供体制等の検討を行った。また、患者送迎や訪問診療、訪問看護など、地域の医療ニーズに対応した取組を進め、必要な医療の確保に努めたが、「経営計画」に示す病院経営の数値目標は達成できなかった。</p>	×	×						

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績					22年度 評価案	(参考) 21年度評価
3	経営計画								
	(1) 中期財政運営目標								
7	ア 入院	常勤医体制（常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。）の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指します。	常勤医師の減少が影響し、目標とする患者数の確保が困難な状況であった。 平成21年度 4名 → 平成22年度 2名					×	×
		<数値目標>							
目標項目		(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度		差引 (22実績-22目標)	増減理由	
			実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況		
一般病床	平均在院日数	18.9日	20.5日	×	17.9日	18.1日	▲	+0.2日	亜急性期病床での入院患者の受入れの増加等により改善したが、目標には届かなかった。
	病床利用率	66.9%	63.6%	×	87.0%	52.2%	×	△ 34.8ポイント	常勤医師不足による入院患者の受入減
	延べ患者数	10,216人	9,520人	×	13,020人	7,665人	×	△ 5,355人	//
療養病床	診療報酬単価	25,060円	23,405円	×	25,504円	25,119円	▲	△ 385円	平均在院日数の減少により改善したが、目標を下回った。
	病床利用率	78.6%	81.0%	▲	88.8%	77.2%	×	△ 11.6ポイント	常勤医師不足による入院患者の受入減
	延べ患者数	7,217人	7,683人	▲	8,432人	7,538人	×	△ 894人	//
	診療報酬単価	15,586円	15,260円	×	17,983円	16,115円	▲	△ 1,868円	21年度と比較して改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。
8	イ 外来	常勤医体制（常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。）の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指します。	常勤医師の減少が影響し、目標とする患者数の確保が困難な状況であった。					×	×
		<数値目標>							
目標項目		(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度		差引 (22実績-22目標)	増減理由	
			実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況		
延べ患者数		34,455人	32,523人	×	42,282人	30,454人	×	△ 11,828人	常勤医師不足による患者減
1日当たり患者数		142人	134人	×	174人	125人	×	△ 49人	//
診療報酬単価		6,224円	5,287円	◎	5,074円	5,302円	◎	+228円	訪問診療及び検査増等
※ いずれも、診療所の外来患者分を除く。									

大項目	中項目	具 体 的 取 組 事 項		平成22年度の実績			22年度 評価案	(参考) 21年度評価	
9	ウ	運営収支							
		経営改善により、平成23年度からの単年度収支黒字基調転換を目指します。		経費削減の取組の推進や、一般会計からの繰入れの増額により、単年度赤字は大幅に圧縮したものの、目標の達成には至らなかった。			×	×	
		<数値目標>							
	目標項目	(参考) 20年度実績	(参考)21年度		22年度			差引 (22実績-22目標)	増減理由
			実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況		
	収益的収入	828百万円	760百万円	×	960百万円	764百万円	▲	△ 196百万円	入院・外来収益等が減少した一方で、一般会計繰入金が増加したことにより、収入は微増となったが、目標には届かなかった。
	収益的支出	994百万円	934百万円	◎	966百万円	855百万円	◎	△ 111百万円	常勤医師の減少に伴う給与費の減少、入院・外来患者の減少に伴う材料費の減少、委託業務等の見直しによる経費の削減
	単年度収支	△ 166百万円	△ 174百万円	×	△ 6百万円	△ 96百万円	▲	△ 90百万円	収益的支出の減により改善したが、目標には届かなかった。
	累積収支	△ 525百万円	△ 699百万円	×	△ 531百万円	△ 795百万円	×	△ 264百万円	入院・外来収益の減少
経常収支比率	83.3%	81.4%	×	99.4%	89.4%	▲	△ 10.0ポイント	収益的支出の減により改善したが、目標には届かなかった。	
職員給与費対 医業収益比率	67.1%	83.8%	×	65.0%	86.0%	×	+21.0ポイント	入院・外来収益の減少	

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
(2) 経営効率化に関する考え方					
10	ア	民間的経営手法の導入			
		平成23年度から非公務員型の地方独立行政法人へ移行することにより、その特徴を生かして、これまでの手法にとらわれない、機敏で柔軟性のある運営を行い、効率的な経営を目指します。	<p>○平成22年4月に地方独立行政法人京都市立病院機構評価委員会（以下、本項において「委員会」という。）を設置</p> <p>○平成22年9月に理事長予定者の内定について公表。また、中期目標の策定や地方独立行政法人京都市立病院機構定款の一部改正、その他地方独立行政法人化関連議案が市会で可決された。</p> <p>○平成23年3月に地方独立行政法人京都市立病院機構に職員を引き継ぐ京都市の内部組織を定める条例が市会で可決された。</p> <p>○委員会において、平成22年度、全6回にわたり会議を開催し、中期目標、中期計画をはじめとする地方独立行政法人法により市長が策定や認可を行う際に意見を徴収すべきとされている事項や、委員会が市長に対し意見を述べることができるとされている事項のすべてについて審議した。</p> <p>※ 平成23年4月1日 地方独立行政法人京都市立病院機構設立</p>	○	○
11	イ	事業規模・形態の見直し			
		入院・外来機能等については、中期的には、現状を基本としつつ、地域の医療ニーズに見合った機能の確保に努めますが、今後2年間の稼働状況の推移等により、一定の再編・集約化にも取り組むものとします。なお、診療体制の再編・集約化に当たっては、事業規模等に見合った適正なものとなるよう、必要な職員配置の見直しを検討するものとします。	<p>京都市医療施設審議会からの答申（平成22年6月）を受け、介護療養型老人保健施設の開設に向けた施設改修や職員配置を含むサービス提供体制等の検討を行った。</p> <p>また、平成22年9月に、市会の議決を得て、平成22年3月に策定した地方独立行政法人京都市立病院機構定款を一部改正し、法人が旧療養病床から転換した京都市京北介護老人保健施設を設置及び管理することとした。平成23年1月から、一般病床を従来の41床から38床に、療養病床を26床から29床にした。これにより、介護老人保健施設については、小規模な施設の制度上の区切りの上限である29床で開始することができた。</p> <p>※ 平成23年4月1日 京都市京北介護老人保健施設 （愛称：はなふるさと）開所（29床）</p>	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
	ウ	経費削減・抑制対策			
12		給食や診療報酬請求等の業務については、引き続き民間委託を行うとともに、平成20年11月から実施している、京都市立病院との間での薬品の共同購入等により、経費の削減・抑制を図ります。	委託業務については、業務内容の見直し等を行った結果、前年度と比較して約5,700千円削減(△5.7%)するとともに、診療材料に係る京都市立病院との共同購入の検討を行った。 ※ 平成23年4月から診療材料の共同購入を実施	○	○
13		平成20年度に引き続き、平成21年度も高金利企業債の繰上償還により、利子負担の軽減を図ります。	平成20年度の繰上償還により、取組は実施済み(参考) 借換額 42百万円 利率7.5%→0.965% 利子負担軽減額累計 4百万円	○	○
	エ	収入増加・確保対策			
14		常勤医体制(常勤的に勤務できる非常勤医師を含む。)の充実等に努めることにより、より多くの患者の受入れを目指すとともに、京都市立病院との連携強化を図る中で、手術件数の増加等に努めます。	常勤医師の減員により、手術の実施は困難な状況となった。 しかし、地方独立行政法人化による市立病院・京北病院の一体的な病院運営、役割分担を踏まえ、地域包括ケアの拠点施設としての役割を果たしていくため、地域のニーズに合わせたサービスの提供に重点を置いて取り組んだ。	×	△ 手術件数の増加については、医師の体制上困難
15		的確なベッドコントロールによる病床利用率の向上を図るとともに、診療報酬等に関する院内研修等を実施し、知識の向上等に努めます。	入院患者数が減少し、ベッドコントロールにより病床利用率の向上を図るまでの状況には至らなかった。診療報酬に関する院内研修等を実施し、知識の向上等に努めることについては、月1回の市立病院職員による支援・連携の下、診療報酬明細書の内容を精査し、必要な加算等の取得に努めた。	△	△

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価
	オ その他				
16		平成20年度内に情報システムを整備し、診療科別収支分析等の経営分析手法を取り入れた進捗管理を行うことにより、数値目標の確実な達成を目指すとともに、各事業部門の責任者からなる院内組織を編成し、病院長の指示が徹底されるシステムを構築します。	毎月の定例会議（病院運営会議）において、収支報告・経営分析を行い、職員間の共通理解を図った。	△ 数値目標の確実な達成には至らなかった。	△ 数値目標の確実な達成には至らなかった。
17		「健全な財政が良質な医療を支える」という認識のもと、京都市立京北病院の経営計画を職員全員でしっかり共有するとともに、職員一人ひとりが、医療サービスの提供を通じて地域を支えていくという強い使命感と危機意識を持って、病院経営の改革に取り組みます。	経営上、運営上の課題を分析し、改善を図る京北病院経営改善会議（22年度は4回実施）を実施するとともに、院長を筆頭に職員全員が一丸となって経営改善に向け取り組んだ。	△ 職員に危機意識はあったものの結果には結びつかなかった。	△ 職員に危機意識はあったものの結果には結びつかなかった。
18		地域組織等の協力も得る中で、タイムリーな周知・広報に努めるとともに、健康増進セミナーの開催等、地域と連携した事業を実施し、積極的に地域の中への浸透に努めます。	<ul style="list-style-type: none"> ・「京北タイムス」（全戸配布）による病院情報の発信 2回（㊤2回） ・「スマイル通信」（院内設置、関係医療機関送付） 3回（㊤4回） ・「健康増進セミナー」（いきいき京北地域ケア協議会共催） 1回（㊤3回） ・いきいき京北地域ケア協議会に参画…関連事業（健康増進セミナーや講演会など）・会議（要援護高齢者の情報共有など） 合計22回実施 	○	○

大項目	中項目	具体的取組事項	平成22年度の実績	22年度 評価案	(参考) 21年度評価																												
(3) 定員管理及び給与の適正化に関する考え方																																	
19	ア	定員管理の取組	<p>病院の機能の維持・向上を阻害しない範囲内において、定員管理に取り組んだ。</p> <p>実配置 平成20年度末79名 平成21年度末73名 平成22年度末71名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種区分</th> <th>21年度</th> <th>22年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>△2</td> </tr> <tr> <td>看護師・准看護師</td> <td>38</td> <td>38</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>73</td> <td>71</td> <td>△2</td> </tr> </tbody> </table>	職種区分	21年度	22年度	増減	医師	4	2	△2	看護師・准看護師	38	38	-	コメディカル	8	8	-	事務	9	9	-	その他	14	14	-	合計	73	71	△2	△	○
	職種区分	21年度	22年度	増減																													
医師	4	2	△2																														
看護師・准看護師	38	38	-																														
コメディカル	8	8	-																														
事務	9	9	-																														
その他	14	14	-																														
合計	73	71	△2																														
20	イ	給与の適正化の取組	<p>病院機能の中核を担う医師については、全国的に医師が不足する状況のもとにあって、その確保が極めて重要であるため、初任給調整手当の増額など、引き続き給与水準の改善に取り組めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域手当の引上げ 平成19年度 12%，平成20年度 13% 平成21年度 14%，平成22年度 15% ・常勤医師の平均年収（△917千円/年） 平成21年度16,000千円 → 平成22年度15,083千円 <p>※ 時間外勤務手当の減少等</p> <p>(参考) 初任給調整手当の引上げ 平成20年度 月額 37,500円～159,000円 → 平成21年度 月額 37,500円～249,000円</p>	○	○																												
(4) 一般会計における経費負担の考え方																																	
21		<p>一次救急等の政策医療については、効率的な運営に努めてもなお性質上不採算とならざるを得ない収支不足部分を補填するために所要の措置を講じていきます。</p> <p>具体的な積算については、総務省繰出基準による繰出しは従前どおり確実に行うとともに、極めて厳しい本市の財政状況を踏まえ、平成21年度から当該基準外の繰出しは原則として廃止します。</p>	<p>プランにおいて定めたとおり総務省繰出基準による繰出しを確実に行った。</p> <p>平成21年度166百万円 → 平成22年度204百万円</p> <p>(参考) 平成21年度に総務省繰出基準外の繰出金は廃止</p>	○	○																												

京都市病院事業改革プランに掲げた「数値目標」の達成状況
(京都市立病院)

達成状況の区分	該当項目数	
	22年度	【参考】21年度
◎＝23年度目標を前倒しで達成	6	2
○＝該当年度の目標を達成	2	5
△＝該当年度の目標を概ね達成	1	1
▲＝未達成(前年度実績より改善)	11	7
×＝未達成	1	6
計	21	21

改革プランに掲げた「具体的取組事項」42項目のうち6項目(別紙2-1参照)において関連する「数値目標」として掲載

数値目標	(参考) ㉓実績	(参考) ㉑		㉒			説明
		実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	
財務に係る数値目標(主なもの)							
1 平均在院日数	15.6日	14.4日	◎	14.9日	14.6日	◎	23年度目標(14.6日)を前倒しで達成。
2 一般病床利用率	79.7%	81.8%	▲	88.0%	83.8%	▲	延べ患者数が目標に達しなかったため、病床利用率も目標を下回った。
3 入院患者数(延べ患者数)	168,263人	161,457人	×	173,401人	165,404人	▲	
4 入院患者数(実患者数)	10,122人	10,490人	▲	10,954人	10,572人	▲	実患者数は過去最高となったが、目標には届かなかった。
5 入院診療報酬単価(一般病床税抜き個室料含む)	45,737円	45,742円	▲	48,967円	48,080円	▲	21年度と比較して大幅に改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。

数値目標	(参考) ⑳実績	(参考) ㉑		㉒			説明
		実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	
6 入院・外来比率	1.81	1.93	×	1.71	1.82	▲	改善したが、目標には届かなかった。
7 外来患者数(延べ人数)	304,723人	312,017人	×	296,516人	300,735人	▲	紹介率及び逆紹介率の増等により減少したが、目標には届かなかった。
8 1日当たり患者数(外来)	1,254人	1,289人	×	1,210人	1,238人	▲	
9 外来診療報酬単価(税抜)	8,514円	8,862円	○	8,559円	9,588円	○	外来化学療法等によるもの
10 収益的収入	13,027百万円	12,694百万円	×	13,676百万円	13,431百万円	▲	入院収益が目標に届かなかったことによるもの
11 収益的支出	12,992百万円	12,592百万円	○	13,042百万円	12,883百万円	◎	材料費減によるもの
12 単年度収支	35百万円	178百万円	△	634百万円	264百万円	▲	改善したが、目標には届かなかった。
13 累積収支	△ 130百万円	48百万円	▲	716百万円	312百万円	▲	〃
14 経常収支比率	100.3%	100.8%	▲	104.9%	104.3%	△	ほぼ達成
15 職員給与費対医業収益比率	61.1%	64.4%	×	57.5%	61.6%	▲	医業収益が目標に届かなかったこと及び職員給与費のうち退職手当等が増となったことによるもの
医療機能に係る数値目標(主なもの)							
16 救急患者数	19,123人	23,234人	○	23,134人	20,377人	×	21年度は新型インフルエンザの発生により救急患者数が急増した。 22年度は、救急車受入件数の増加(3,095件→3,843件、過去最高)や救急入院患者数の増加(3,470人→3,580人、11年度以降最高)など、重症の救急患者の積極的な受入れを行ったが、目標には届かなかった。
17 救急車受入件数	2,782件	3,095件	▲	3,362件	3,843件	◎	原則として救急搬送要請を断らない姿勢を徹底することにより、21年度に引き続き過去最高を更新した。
18 紹介率	41.3%	42.2%	○	43.3%	44.0%	○	地域医療連携の推進による登録医数の増等に伴い、紹介患者数及び逆紹介患者数が増加したことによる。特に、逆紹介率については、平成23年度の目標(65.0%)を平成21年度に前倒しで達成
19 逆紹介率	64.0%	68.0%	◎	64.0%	72.5%	◎	
20 新規がん患者数	893人	953人	○	998人	1,142人	◎	23年度目標(1,068人)を前倒しで達成
21 がん治療延べ件数 (注：手術、化学療法等の実施件数)	2,413件	2,621件	▲	2,840件	3,047件	◎	23年度目標(3,039件)を前倒しで達成

京都市病院事業改革プランに掲げた「数値目標」の達成状況
(京都市立京北病院)

達成状況の区分	該当項目数	
	22年度	【参考】21年度
◎=23年度目標を前倒しで達成	2	2
○=該当年度の目標を達成	0	0
△=該当年度の目標を概ね達成	0	0
▲=未達成(前年度実績より改善)	7	2
×=未達成	10	15
計	19	19

改革プランに掲げた「具体的取組事項」21項目のうち4項目(別紙2-2参照)において関連する「数値目標」として掲載

数値目標	(参考) ⑳実績	(参考) ㉑		㉒			コメント
		実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	
財務に係る数値目標 (主なもの)							
1 平均在院日数 (一般病床)	18.9日	20.5日	×	17.9日	18.1日	▲	亜急性期病床での入院患者の受入れの増加等により改善したが、目標には届かなかった。 ※亜急性期病床は22年3月に設置
2 病床利用率 (一般病床)	66.9%	63.6%	×	87.0%	52.2%	×	常勤医師不足による入院患者の受入減
3 延べ患者数 (一般病床)	10,216人	9,520人	×	13,020人	7,665人	×	〃
4 診療報酬単価 (一般病床)	25,060円	23,405円	×	25,504円	25,119円	▲	平均在院日数の減少により改善したが、目標を下回った。

数値目標	(参考) ⑳実績	(参考) ㉑		㉒			コメント
		実績	達成状況	数値目標	実績	達成状況	
5 病床利用率（療養病床）	78.6%	81.0%	▲	88.8%	77.2%	×	常勤医師不足による入院患者の受入減
6 延べ患者数（療養病床）	7,217人	7,683人	▲	8,432人	7,538人	×	〃
7 診療報酬単価（療養病床）	15,586円	15,260円	×	17,983円	16,115円	▲	21年度と比較して改善したが、診療報酬のプラス改定によるところが大きい。
8 延べ患者数（外来）	34,455人	32,523人	×	42,282人	30,454人	×	常勤医師不足による患者減
9 1日当たり患者数（外来）	142人	134人	×	174人	125人	×	〃
10 診療報酬単価（外来）	6,224円	5,287円	◎	5,074円	5,302円	◎	訪問診療及び検査増等
11 収益的収入	828百万円	760百万円	×	960百万円	764百万円	▲	入院・外来収益等が減少した一方で、一般会計繰入金が増加したことにより、収入は微増となったが、目標には届かなかった。
12 収益的支出	994百万円	934百万円	◎	966百万円	855百万円	◎	常勤医師の減少に伴う給与費の減少、入院・外来患者の減少に伴う材料費の減少、委託業務等の見直しによる経費の削減
13 単年度収支	△ 166百万円	△ 174百万円	×	△ 6百万円	△ 96百万円	▲	収益的支出の減により改善したが、目標には届かなかった。
14 累積収支	△ 525百万円	△ 699百万円	×	△ 531百万円	△ 795百万円	×	入院・外来収益の減少
15 経常収支比率	83.3%	81.4%	×	99.4%	89.4%	▲	収益的支出の減により改善したが、目標には届かなかった。
16 職員給与費対医業収益比率	67.1%	83.8%	×	65.0%	86.0%	×	入院・外来収益の減少
医療機能に係る数値目標（主なもの）							
17 延べ患者数（入院（一般＋療養））	17,433人	17,203人	×	21,452人	15,203人	×	常勤医師不足による患者減
18 延べ外来患者数	34,455人	32,523人	×	42,282人	30,454人	×	〃
19 救急患者数	2,273人	2,116人	×	2,261人	2,163人	▲	受入患者数は増加したが、目標には届かなかった。